

加工用バレイシヨの高品位安定生産技術の確立

第1報 加工用バレイシヨ栽培の現状と問題点

森 清文・持留信雄・上妻道紀・黒瀬行男¹⁾ (鹿児島県農業試験場大隅支場¹⁾カルビーポテト株式会社)

Kiyofumi MORI, Nobuo MOCHIDOME, Michinori KOUZUMA and Yukio KUROSE

Stable Production of High Quality Potato for Chips

1. Present Conditions and Problems of Cultivating Potato for Chips

鹿児島県における加工用バレイシヨ栽培面積は、約40haで、主に曾於鹿屋地域を中心に作付けされている。加工用バレイシヨは、最終的にポテトチップに加工されるため、青果用バレイシヨとは異なった栽培技術上の問題点が指摘されている。そこで、本報告では、栽培上の問題点と、現状について現地試験をもとに報告する。

1. 材料および方法

供試品種はトヨシロ、試験実施場所は、①大隅現地(大隅支場内ほ場)、②鹿屋現地試験ほ場、③大崎現地試験ほ場の3カ所で行った。他の要因として、施肥要因をN 1.8~0.8kg/aの範囲で5水準、マルチ要因として透明マルチ、黒マルチの2水準を設け、各要因ごとに、収量、でん粉価、線虫被害、カラー値(油で揚げた後の色合い)について地域間差を検定し、問題点の抽出を図った。植付 収穫時期 栽培期間は、1999年の①2月10日~5月10日(100日)、②2月12日~5月23日(101日)、③2月18日~5月23日(95日)であった。

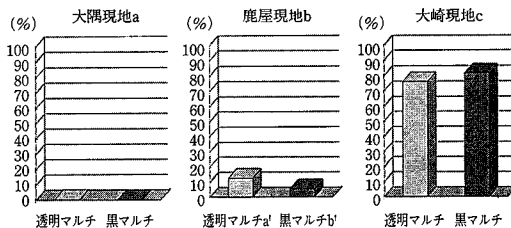
2. 結果および考察

収量調査結果について、第1図に示す。①大隅現地、③大崎現地在、②鹿屋現地より収量が有意に高くなり地域間差を認めた。施肥要因、マルチ要因による差は認めなかった。

でん粉価調査結果について、第2図に示す。でん粉価は加工用バレイシヨの最も重要な品質指標で、高でん粉

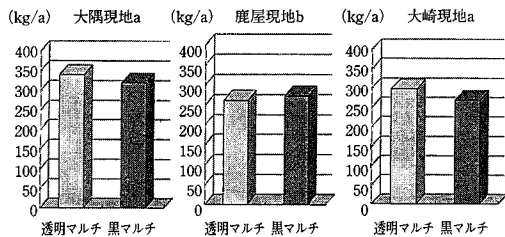
価が要求されるが、①大隅現地、③大崎現地在が②鹿屋現地より有意に高く、地域間差を認めた。施肥要因に、差は認めなかったが、マルチ要因について、大崎現地在で黒マルチが透明マルチに比べてでん粉価が有意に高くなった。

線虫被害調査結果について第3図に示す。線虫被害により貯蔵性低下、品質低下につながるため、線虫対策も重要な栽培上の課題となるが、今回の調査では、①大隅現地在では被害はみられず、②鹿屋現地在でやや被害がみられる。また、③大崎現地在では、線虫被害が著しく、防除が適切に行われていない。また、②鹿屋現地在では、透明マルチが黒マルチより被害が大きくなり、有意差を認めた。

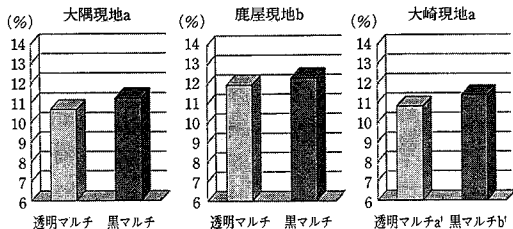


第3図 線虫被害調査結果

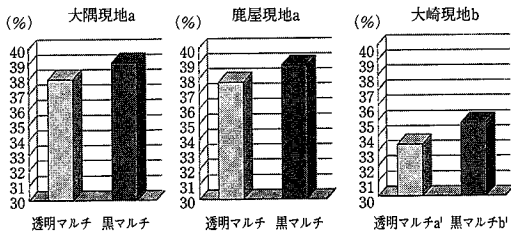
カラー値調査結果について第4図に示す。カラー値は、油で揚げた後のチップの色で、カラー値38以上が適正値であるが、今回の調査では、①大隅現地在、②鹿屋現地在では、基準値をクリアしているが、③大崎現地在では、大きく下回っている。これは、線虫被害によるカラー値の低下であることを示している。



第1図 収量調査結果



第2図 でん粉価調査結果



第4図 カラー値調査結果

注) 図中の英小文字は異なる小文字間で5%水準で有意差有り (a, b = 地域間, a', b' = マルチ処理間)